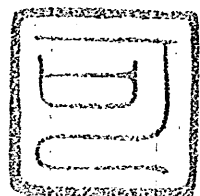


スルヲ得タリ東洋ニ於ケル我邦ノ地位ヲ確立シ平和克



三位勲一等侯爵西園寺公望
任内閣總理大臣

内閣總理大臣兼文部大臣伯爵桂太郎
依願免本官並兼官

右

勅旨ヲ奉シ謹テ奏ス



百七十五

明治三十九年一月七日
陸軍大臣寺内正毅

臣

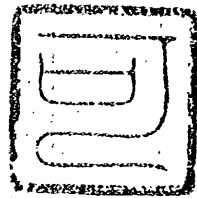
曩、病餘非オヲ以テ敢テ自ラ揆ラズ内閣首班ノ重責ヲ奉セリ爾來政々驚鈍ヲ盡シ以テ皇恩ノ萬一答ヘ奉ラムコトヲ期ス明治三十六年臣當時ノ政情ニ察シ負荷ノ任ニ耐ヘサルモアリカフルニ心身亦靜養ヲ要スルノ故ヲ以テ上表骸骨ヲ乞ヘルモ時適々日露交渉ノ端ヲ聞カムトスルニ當リ更ニ聖旨ヲ奉シテ留職其事ニ任ス而テ交渉効ナク交戦ニ至聞月幸ニ陛下ノ御稜威ニ由リ當初ノ目的ヲ達シ平杓ノ克復ヲ見ルヲ得タリ國威茲ニ揚リ國勢茲ニ張ル臣此盛時ニ方リ敢テ補弼ノ員ニ備ハル聖恩ノ厚何物カ之ニ加ヘム顧リニ日英協約ノ更締已ニ成ヲ告ケ今亦日韓協約ト日清約定トノ

完結せらるり而テ戦後經營ニ屬ス財政案亦畧其指畫ヲ
了スルヲ得タリ東洋ニ於ケル我邦ノ地位ヲ確立シ平和克
復ニ随伴シテ處理スベキ要務ハ是ヲ以テ一段落ヲ盡スル
ニ至レリ今後ノ事アル實ニ現下ノ形勢ニ基キ舉國一致
益々國運ノ發展大成ヲ期スルニ在リ其業決シテ容易
ニアラス臣曩ニ命ヲ奉シテ日露和約ノ局ヲ收ルルヤ當時
國民敵愾ノ心尚盛ニシテ全局ノ利害ニ通曉スル者寡ナク
為ニ世論ノ喧囂ヲ致セリ是レ固ヨリ一時ノ現象タルニ
過キスト雖政局ノ轉進發達ヲ期スルニ當リテハ機微ノ間
民心ヲ善導シ轉回スルノ最モ緊要ナルモノアルヲ信ス今ヤ
平和克復一新時期ヲ盡シ今後經營ノ任務重且大ナルニ
方リ臣ノ健康益々不良ヲ加フルヲ以テシテ依然補弼ノ

任ニ在ルハ獨リ時局ノ推移ニ利スル所ナキノミナラス會々
寵恩ニ背キ 聖德ヲ汚スニ至ラムコトヲ憂ヘ夙夜
恐懼措ク能ハサル所ナリ希クハ 聖明至仁特ニ 聖鑑ヲ
垂レ臣ノ現職ヲ解キ臣ニ許スニ静養ノ時ヲ以テシ報効
ヲ他日ニ期スルヲ得セシメ賜ハレコトヲ 誠惶誠恐頓首

明治三十八年十二月

内閣總理大臣兼外務大臣文部大臣伯爵桂 太郎



任外務大臣

正四位勲一等加藤高明

任内務大臣

正四位勲三等原敬

任大藏大臣

大藏次官兼臨時國債整理局長從四位勲三等法學博士阪谷芳郎